
トラックルール・ウッド

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トラックルール・ワード

【Nコード】

N2258BA

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

熾烈さを極めるレースバトル。架空の国、アイヴィス共和国で開催されるそのレーシングは美しくも過酷なデュエルである。

第一話 2029年の最後の試合

「さあー、最後のステージである優勝戦もいよいよ大詰めだー！」

決勝戦は、リヴァチームVSヒロサキチームはレースバトルになっていた。

44000mのコースを走り抜けた。

「ついにラストランだぜ13週目。」

「ああ、カラス。油断はするなよ。」

「バージニアの援護をすればいいということだな。」

「そう言うことだ。」

「よし、先に行くぜ！」

「後は任せた。」

カラスは左にあるボタンを押した。

「よし、妨害してやるぜ。」

ロンゼンとシグーの乗っているレーシングカーにターゲットを絞った。

「援護するぜ！バージニアさんよ！」

「ちっ、余計なまねを。」

「おー！カラスが歯車を使ったトラップを使ったぞ！」

カラスは、バージニアと一緒に1位と2位と取った。

グラは4位で終わった。

ヒロサキチームは負けたが準優勝で終わったので少し悔しい気持ちを持っていた。

「次は来年の11月位ですね。」

「そうだな。優勝戦に向けて頑張るぞ。」

「はいっ！」

2030年は予選は大盛り上がりになっていた。

優勝戦に行けるチームは5チームだけ。

「いよいよ、俺達も活躍しなければな。」

「そうだな。」

第一話 2029年の最後の試合（後書き）

次回第二話 2030年度の優勝戦。お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2258ba/>

トラックルール・ウッド

2012年1月5日19時48分発行